

学習・教育目標	<p>森林科学科では、以下の①～⑦を学習・教育目標として定め、これらを到達目標としている。</p> <p>(A) 森林科学の学習を進めるとともに、読書・情報処理・専門基礎の知識と思考力を高め、地学的、地帯的の両面からの視点から物事を判断、理解する能力を身につける。</p> <p>(B) 栃木県内に展開する林業生産現場や演習林を活用し、森林の育成・管理から、生産・加工利用にいたる一連の生産活動の流れと森林の持つ多面的な機能を理解する。さらに、森林における生産活動が社会及び自然環境に及ぼす影響を総合的に理解し、評価する能力を身につける。</p> <p>(C) 森林生態系及びその構成要素である生物に関する遺伝子レベルから生態系レベルまでの生物学的知識を習得し、生物多様性の保全、森林の育成・修復などの管理技術を身につける。</p> <p>(D) 森林資源の持続的活用のために必要となる計測技術、管理計画、森林政策に関する知識を習得する。また、森林の社会的な役割、位置づけを理解し、森林に関する管理計画、政策を立案する能力を身につける。</p> <p>(E) 森林の保全と森林生産のための基礎整備に関する数学・物理学・工学の知識を習得する。また、森林生産に関する技術、環境への影響を理解し、作業システムをデザインできる能力を身につける。</p> <p>(F) 森林資源の活用を行ったための生物学、化学、物理学などの専門知識を習得し、木質資源などの利用のための新技術を開発・活用できる能力を身につける。</p> <p>(G) 森林科学全般の知識を基礎とし、森林資源の生産・利用現場からの要求に応えるよう研究実行力、技術開発力、成果のまとめと公表が行える能力を身につける。また、研究・技術開発の成果が、社会及び生活環境に及ぼす影響を多面的な視点から理解する能力を身につける。</p>
---------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連								
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)		
初級導入科目	新入生セミナー	森林科学科において4年間、実習・卒業論文研究等で使用する農学部附属演習林での宿泊セミナーを通して、森林科学の大きな流れを認識した上で、大学での学び方について学ぶ。また、「職業としての林業技術者（ワーカー）」の導入教育を通して、森林科学に関する職業・働き方について理解を深め、自身のキャリアプランを意識する機会とする。さらに、学内講義を通して、森林科学に関連した「読む、書く、話す、考える」能力を養う。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連し、森林科学を学ぶ上での「書く、話す、考える」基礎能力を身につける。	森林科学の大きな流れを体感し、自主的かつ自立的な姿勢および学習の進め方を学ぶ。また、林業技術者等の将来的なキャリアを意識した専門分野の学び方について学ぶ。さらに、基本的な「読む、書く、話す、考える」能力を養う。	1	0	0	0	0	0	0	0
英語	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skillsの養成後、Oral CommunicationとReadingを主とした4つのスキル(Speaking, Listening, Reading, Writing)の育成を、「Integrated English B」では、Oral CommunicationとWritingを主とした4つのスキルの育成をはかる。2年次以降の「Advanced English I, II, III」の各クラスでは、基本的な英語運用能力を身に、個々の学生の興味に応じて、特定のスキルに焦点を当てた英語力を養成をはかる。TOEICによるクラス分けを行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを4年間にわたり履修可能とする。以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソン」の平均的英語力以上」に到達する学生が全学生の50%以上になることを目指す。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連し、森林科学の学習を進める上で必要となる、語学の知識と思考力を高める。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力を身につける。	1	0	0	0	0	0	0	0	0
リテラシー科目	スポーツと健康	生涯にわたり適切なスポーツを楽しむように、選択した運動種目の技術及び知識の習得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連している。	履修した運動種目の知識、技能の基本的な能力の修得を通して、心身の健康を維持し、体力向上への意識づけを図るとともに今後発展するコミュニケーション能力、リーダーシップの基礎を養成することを目指す。	1	0	0	0	0	0	0	0
	情報処理基礎	情報リテラシー(情報機器の操作法、情報および情報手段を自主的に選択し活用していくための基礎的な能力)、森林科学科の専門分野の学習で必要とされる情報処理技術の基礎、技術者倫理に関わる情報倫理について講義・演習する。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連し、森林科学の学習を進める上で必要となる、情報処理の知識を身につける。	情報化社会を賢明に生きるとともに、専門分野でリーダーシップを発揮するためには、情報の検索、交換、表現や分析等の利用技術に通じること、とりわけインターネットを効果的に活用する能力が必要となる。本授業では、すべての学生が、情報化社会で必要不可欠とされる情報リテラシー、森林科学科の専門分野の学習で必要とされる情報処理技術の基礎を習得する。	1	0	0	0	0	0	0	0
	とちぎ終章学総論	高齢者に関する課題を自らの問題として捉え、高齢者と共生するため、また、自分自身も豊かな終章を生きていくための知識について学ぶ。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連している。	(1) 人間がどのように生きていくのか、その生き方の多様性を理解し、関心を持つ。 (2) 高齢社会における生活をめぐる課題について理解し、解決策について考える。 (3) 自らのこととして老いや終章について考えることにより、人生を積極的に生きる意欲を喚起する。	1	0	0	0	0	0	0	0
人文科学系科目	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得する。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連している。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連している。	授業の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身につけている。	1	0	0	0	0	0	0	0
社会科学系科目	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通して、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得する。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連している。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連している。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力を身につける。	1	0	0	0	0	0	0	0
自然科学系科目	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得する。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連している。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連している。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養を身につける。	1	0	0	0	0	0	0	0
教養科目	健康科学系科目	大学在学中および将来にわたって生活の基盤となる「運動」、「栄養」、「休養」に関する諸科目を修得することで、健康科学に関する幅広い教養と実践力を身につけることを目指す。「スポーツの文化や社会での役割」、「トレーニング法とその効果」に関する科目、「食と栄養」に関する科目、「心身の健康」に関する科目などから各自の学習計画に応じた必要な科目を修得する。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連している。	生活の質的充実の基盤となる食事や健康の重要性とスポーツの果たす役割やスポーツが本来有する「楽しみ」を知り、自ら健康を維持増進させるための基本的な知識と実践力を身につける。	1	0	0	0	0	0	0	0
	初習外国語系科目	「初習外国語基礎Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」において、大学入学前に、それぞれの言語を学習したことのない初習者を対象とし、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」力を養う。また、「初習外国語応用Ⅰ」において、各言語の基本的な能力を確立しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上をはかる。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連している。	初習外国語について、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことに関する基礎的能力、諸外国や異文化の多様性への興味・理解、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性、語学学習を通じた自立的な大学での学びの基礎を身につける。	1	0	0	0	0	0	0	0
	総合系科目	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングを行う。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参加により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたって「新たな社会」を創る上で求められる行動的知性を養成する。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連している。	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、行動的知性を身につける。	1	0	0	0	0	0	0	0
基盤キャリア教育科目	「自分がどんなキャリアデザインを描くのか」、「どんな大学生活を送ったらいいか」、「どんな職業選択をするのか」を意識しながら学び、職業や働き方への理解を自己理解を深めていく。座学だけでなく、グループワークやインタビュー、外部講師のレクチャーを通じて社会との接点を持つことがら学ぶことを重視し、学生自身の行動や体験を通じたキャリアデザイン力の育成をはかる。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連している。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連している。	変化化する社会の中で未来を切り拓く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍することも目指す姿勢を身につける。また、職業や働き方への理解、自己理解を深めるために必要な知識・技能を習得し、自らキャリアデザインを行う基礎を身につける。	1	0	0	0	0	0	0	0
専門導入科目	「コア実習」では、附属演習林及び附属農場などへ実際に赴き、農林業の現場を体験する。「農業と環境の科学」では、農学の大系全体の全体像を示すことを目的として、農業の歴史と現状、農業と地球環境の関係性について、世界の日本の視点をクロスさせながら講義を進める。さらに先端技術を用いたバイオテクノロジーの研究動向を踏まえた農学研究を紹介し、受講生に農学の潜在力を感じ取りつづらうことを狙っている。「生物資源の科学」では、人々の暮らしと農林畜産業とのつながりを把握し、また生命科学、そして農業と森林の科学に関する一般的な知識を学習する。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連し、森林科学の学習を進める上で必要となる専門の基礎知識と思考力を高める。	森林科学科の学習・教育目標の(A)に関連し、森林科学の学習を進める上で必要となる専門の基礎知識と思考力を高める。	「コア実習」では農林業の現場などを実際に体験することを通して、フィールドワークの基礎を身につける。「農業と環境の科学」では、農学の総合性を理解するとともに、「農業が実践的な学問であり、社会で発生している諸問題の解決に貢献できることを学ぶ。「生物資源の科学」では、人々の暮らしと農林畜産業とのつながりを把握し、また、生命科学、そして農業と森林の科学に関する一般的な知識を修得することにより、環境保全や持続的生物生産に対する理解を深める。	1	0	0	0	0	0	0	0